

# CASBEE® あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタ紡織株式会社 新物流中継拠点建設工事	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊田市生駒町切戸37-1、駒場町中山1-1他	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	1,015 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年6月 予定	評価の実施日	2025年12月8日
敷地面積	168,220 m <sup>2</sup>	作成者	トヨタT&S建設株式会社 一級建築士事務所 北川 幸典
建築面積	23,993 m <sup>2</sup>	確認日	2025年12月9日
延床面積	25,371 m <sup>2</sup>	確認者	トヨタT&S建設株式会社 一級建築士事務所 北川 幸典



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.8**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

**LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>10.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
トヨタ紡織株式会社 新物流中継拠点建設工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体
配慮項目	独自基準 重点項目			建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体	
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>													<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>													-
<b>1 音環境</b>													-
<b>1.1 室内騒音レベル</b>													-
<b>1.2 遮音</b>													-
1 開口部遮音性能													-
2 界壁遮音性能													3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													3.0
<b>1.3 吸音</b>													3.0
<b>2 温熱環境</b>													-
<b>2.1 室温制御</b>													-
1 室温													3.0
2 外皮性能													3.0
3 ゾーン別制御性													3.0
<b>2.2 湿度制御</b>													3.0
<b>2.3 空調方式</b>													3.0
<b>3 光・視環境</b>													-
<b>3.1 昼光利用</b>													-
1 昼光率													3.0
2 方位別開口													3.0
3 昼光利用設備													3.0
<b>3.2 グレア対策</b>													-
1 昼光制御													3.0
<b>3.3 照度</b>													3.0
<b>3.4 照明制御</b>													3.0
<b>4 空気質環境</b>													-
<b>4.1 発生源対策</b>													-
1 化学汚染物質													3.0
<b>4.2 換気</b>													-
1 換気量													3.0
2 自然換気性能													3.0
3 取り入れ外気への配慮													3.0
<b>4.3 運用管理</b>													-
1 CO <sub>2</sub> の監視													3.0
2 喫煙の制御													3.0
<b>Q2 サービス性能</b>													-
<b>1 機能性</b>													0.43
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>													-
1 広さ・収納性													3.0
2 高度情報通信設備対応													3.0
3 バリアフリー計画													3.0
<b>1.2 心理性・快適性</b>													-
1 広さ感・景観 (天井高)													3.0
2 リフレッシュスペース													3.0
3 内装計画													3.0
<b>1.3 維持管理</b>													-
1 維持管理に配慮した設計													3.0
2 維持管理用機能の確保													3.0
<b>2 耐用性・信頼性</b>													0.5
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>													3.1
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													0.4
2 免震・制震・制振性能													3.0
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>													0.52
1 躯体材料の耐用年数													3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													5.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													5.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													3.0
<b>2.4 信頼性</b>													0.1
1 空調・換気設備													3.0
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													2.0

<b>3 対応性・更新性</b>			0.4	3.8	0.48	-	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.8	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	4.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	4.0	0.22		-	-	
②									
モールにて配線し、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる									
電線管敷設している									
更新・修繕時に建物機能を維持できる状況									
バックアップスペースを計画的に確保									
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.57		-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			独自③	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	4.0	0.40		-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.8
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40		-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI <sub>m</sub> =0.66	3.0	5.0	0.20		5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.10		3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.43	3.0	5.0	0.50		5.0
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		
集合住宅の評価					-	-	-		
4.1 モニタリング					-	3.0	-		
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30		-	3.6
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		3.4
1.1 節水					3.0	4.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.8	0.63		3.8
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.20		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		3.0	5.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	5.0	0.24		
②									
特定調達品目: 大便器・自動洗浄装置・節水器具・断熱材									
躯体と仕上げ材が容易に分別可能									
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>					0.2	3.2	0.22		3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.3	0.68		
1 消火剤					-	2.0	0.33		
2 発泡剤(断熱材等)					-	5.0	0.33		
3 冷媒					3.0	3.0	0.33		
ODP=0かつGWP=1発泡剤を用いた断熱材を使用									
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①		4.0	0.33		-	4.0
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33		3.0
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25		
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		
3 交通負荷抑制			独自		-	5.0	0.25		
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		
①									
ライフサイクルCO2排出率73%									
駐車場の確保に取り組んでいる									
<b>3 周辺環境への配慮</b>					0.3	3.0	0.33		3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		
1 騒音			独自		-	3.0	0.50		
2 振動			独自		-	-	-		
3 悪臭					-	3.0	0.50		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		
2 砂塵の抑制					-	3.0	-		
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30		
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタ紡織株式会社 新物流中継拠点建設工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:10%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 トヨタ紡織株式会社 新物流中継拠点建設工事

計画上の配慮事項	
総合	BEIm=0.33、ライフサイクルCO2排出率を抑制し、地球温暖化への配慮を行った
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	配管の主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用
Q3 室外環境(敷地内)	まちなみへの調和に配慮した
LR1 エネルギー	BEIm=0.43、建物の省エネに配慮した
LR2 資源・マテリアル	節水コマ、節水型便器を採用し、地球温暖化への配慮を行った
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を抑制し、地球温暖化への配慮を行った
その他	特に無し